

新学期が始まり、早くも1カ月が経ちました。新たな環境には慣れましたか？図書館では、1年生のオリエンテーションが終わり、今年度の図書委員による毎日の貸出当番も始まりました。今月号では、「本屋大賞」の結果発表を中心に、新着図書も紹介します。読みたい本を見つける参考にしてください。

☆本屋大賞2025 今年の大賞作品は？

毎年全国の書店員さんが「売りたい本」を投票して決まる本屋大賞。

本好きのみなさんの中には発表を楽しみに待っている人もいるのではないのでしょうか？今年の結果は？みなさんの好きな作品は何位でしたか？



★大賞★

「カフネ」 / 阿部暁子 著 / 講談社 / 913ア

★第2位★

「アルプス席の母」 / 早見和真 著 / 小学館 / 913ハ

★第3位★

「小説」 / 野崎まど 著 / 講談社 / 913ノ

★第4位★

「禁忌の子」 / 山口未桜 著 / 東京創元社 / 913ヤ

★第5位★

「人魚が逃げた」 / 青山美智子 著 / PHP研究所 / 913ア

★第6位★

「spring」 恩田陸 著 / 筑摩書房 / 913才

★第7位★

「恋とか愛とかやさしさなら」 / 一穂ミチ 著 / 小学館 / 913イ

★第8位★

「生殖記」 / 朝井リョウ 著 / 小学館 / 913ア

★第9位★

「死んだ山田と教室」 / 金子玲介 著 / 講談社 / 913カ

★第10位★

「成瀬は信じた道をいく」 / 宮島未奈 著 / 新潮社 / 913ミ



大賞は阿部暁子さんの著書「カフネ」が受賞しました。法務局に勤める野宮薫子は自身の弟を溺愛していました。しかし、その弟が急死し、悲しみにくれる中で、弟の元恋人を名乗る小野寺せつなと出会います。せつなは家事代行サービス会社で働いており、やがて薫子も活動を手伝うようになります。その中で2人の距離は次第に縮まり、薫子はせつなの過去を知るうちに弟の死に関する謎にも近づいていきます。

現代社会の「生き方」について深く考えさせられる内容だと思います。中高生にもとても読みやすい作品です。ぜひ手に取ってみてください。

新着図書紹介

- ・近畿地方のある場所について / 背筋 / 角川書店 / 913セ
- ・天久翼の読心カルテ / 知念実希人 / 実業之日本社文庫 / 913チ
- ・サーペントの凱旋 となりのナースエイド / 知念実希人 / 角川書店 / 913チ
- ・家族だから愛したんじゃないくて、愛したのが家族だった / 岸田奈美 / 小学館 / 914
- ・D'TOPIA デートピア / 安堂ホセ / 河出書房新社 / 913ア
- ・ゲートはすべてを言った / 鈴木結生 / 朝日新聞出版 / 913ス
- ・藍を継ぐ海 / 伊与原新 / 新潮社 / 913イ
- ・映画ノベライズ【推しの子】-The Final Act- / 田中創 / 集英社オレンジ文庫 / 913タ
- ・生殖記 / 朝井リョウ / 小学館 / 913ア
- ・読まれる覚悟 / 桜庭一樹 / ちくまプリマー新書 / 914
- ・「嘘をつく」とはどういうことか / 池田喬 / ちくまプリマー新書 / 110
- ・読めば分かるは当たり前？ / 犬塚美輪 / ちくまプリマー新書 / 375
- ・歴史的に考えること / 宇田川幸大 / 岩波ジュニア新書 / 210
- ・ガチャコン電車血風記 / 土井勉 / 岩波ジュニア新書 / 536
- ・世界でいちばん透きとおった物語2 / 杉井光 / 新潮文庫nex / 913ス
- ・C線上のアリア / 湊かなえ / 朝日新聞出版 / 913ミ
- ・アライサム / 畑野智美 / 角川書店 / 913ハ
- ・アルプス席の母 / 早見和真 / 小学館 / 913ハ
- ・小説 / 野崎まど / 講談社 / 913ノ
- ・月とアマリリス / 町田そのこ / 小学館 / 913マ
- ・「本をつくる」という仕事 / 稲泉連 / ちくま文庫 / 916
- ・悪い夏 / 染井為人 / 角川文庫 / 913ソ

新着図書から

「月とアマリリス」 町田そのこ 著

北九州の高蔵山で遺体が発見された。地元のタウン誌でライターとして働く飯塚みちるは、事件の背景を追って記事にできないかという依頼を受ける。みちるにはある事件の記事を書いたことがきっかけで、週刊誌の記者を辞めた過去があった――。「52ヘルツのクジラたち」著者初のミステリ小説。



今月のひとこと

今月号では「本屋大賞」を紹介しました。大賞に選ばれた「カフネ」は、司書室 田中もイチオシの1冊です。とても素敵なお話なので、たくさんの方に読んでもらえると

嬉しいです。ぜひ読んだ感想も聞かせてください。2位の「アルプス席の母」もオススメです。高校野球のお話ですが、野球に興味のない人も感動することまちがいなし！登場人物の母と息子に共感できる人もたくさんいると思います。ぜひ読んでみてください。

